

平成23年度 すぎなみ大人塾 開講記念講演会

平成23年5月21日(土)

於：杉並区社会教育センター(セッション)

〔講師 田中里沙 氏〕 記念講演「学ぶ大人は人生2倍」

1 はじめに

みなさんおはようございます。田中里沙と申します。

本日この様なお話しのお機会を頂きまして、大変ありがとうございます。

6年前にこの「すぎなみ大人塾」がスタートする際、運営方法や講座の企画内容を議論するアドバイザーにお声かけを頂きまして、参加のご縁を得ました。私達は地域に生きているので、地域の中で行政サービスを受けたり、講演を聞いたり施設を活用するなど、それだけではなくて、何か自分も地域の担い手として活躍できるような機会を得ることは素晴らしいと思っていました。6年の間に発展して、本が出来たり、成果物の商品が出来たりとさまざまな実績が出ています。本当にこれは全国に先駆けていて、他には無い取り組みなのだ実感しています。そして新たに又これから益々いろんな展開がなされていく事を期待していますので、その意味も含めて今日はお話をさせて頂けたらと思っております。

今日タイトルに書かせて頂いた「人生2倍」について、私は大学を出て仕事を始めずっと会社員として仕事をしていますが、毎日がルーチンワークと言いましょるか、特に若い頃は、遅くまで仕事をして帰って寝て、又会社に行ってという感じでした。20代30代の時はちょっと損しちゃったなみたいな気持ちもありつつ、でも仕事は充実していました。編集の仕事は多様な方に出会えますし、私自身は素晴らしい方に出会って、その方の話を聞いて人に伝えるという事で、又新たな出会いが出来たり、自分自身が人と人をつなぐ機能を果たしているとか、人と会社をつなぐ・人と地域を繋ぐという仕事が出来るといふ事に醍醐味も感じました。それなりにやりがいがあって、自分自身はかたちになるものを何も得てないのですが、作り出している感じというのがありました。

2 学ぶこと自体が素晴らしい

そして、ある時1人で生きているとなんだか孤立している感じもあるなという風に思い、その頃縁があって結婚して子供が産まれましたので、一つの転機がありました。子供が産まれて子供の周りを見ると、地域ととても繋がっているという事と、自分や夫の親を含め周りの方々を含めて色々話していると、人は社会の中で生きて、生かされていることを実感しました。自分一人で仕事をして成果を上げて働いてきたつもりでしたけれど

も、人の支えなしには生きていけないんだな、多くの人の支えを受けて生活していると、遅ればせながらそういう事に気づきました。

そして子供と共に生きていくと、子供をもっている方、もっていない方 色々いらっしゃるかと思うのですが、親戚のお子さんでも、近所のお子さんでも、お子さんの話を聞くと、自分が過ごしてきた事をもう一度思い出して、共に考えたりするとさらに2倍3倍の何か自分が得られる物が出てくるなという事に気づきました。【学んでいくという事に素晴らしさ】と【無限の可能性】という事を感じたという事があります。今は高齢化社会になってきましたし、時代の変化のスピードがとても早いです。先日もお会いした哲学者の先生は、「現代は昔に比べると激動の人生を2回生きる様なものですよ」と話していました。

60代70代の先生ですけど、「まだまだ生きていかなければいけない」と、「まだまだこれから、自分が予測もしない変化が来るかもしれない時代だ」という事を認識していらして、「働き盛りを迎えて、あとは平和な毎日」というのが出来なくなってきているので、本当に普通に考えていても、人生を2回生きるチャンスはあるのです。ならば、「自分から働きかけて学んでいかななくては」という事が必要なのかなという風に思っています。

でもその時に考えるのは、時代の変化に対応しながら生きていくという事と、自らの意思で生きていくというのは全然違うということです。流れに乗ってくというのは簡単な様で難しい部分もありますし、流れに乗っていくと、ふと振り返った時に自分の立ち位置がどうなのかな？と不安になる、よかったのかなと思う事があると思うのです。その中で自分の意思で生きていく支えになるのが、【学び】という事なのかなと思っています。

3 プレイフルシンキング

【プレイフルシンキング】という言葉を書きましたが、これは同志社女子大学の上田信行教授という方が提唱し、本も書かれています。還暦を迎えられたのですが、とっても若々しくて、「歌でメジャーデビューしたいんだ！」という事を言ったり、いつも楽しく夢を語る方です。私どもの雑誌で対談をしてもらってアーティストの方とか、ミュージシャンの方と一緒に話すと、「自分もたぶんアートの才能があると思う」とか「ミュージカルの才能があると思う」と自分でおっしゃっていたりして、すごくワクワクドキドキする様な事を言うのですね。

【学び】とか【学習】というと、【一定のことを学んで、その成果を出していく】といった事に終始しがちですが、【プレイフルシンキング】という考えは代表的なところだとセサミストリートがありますよね。アメリカでは、勉強の機会に恵まれないお子さん

達に、楽しく勉強をする機会を作ろうという事で、この番組が社会貢献的に出来たという経緯があります。上田先生は、「どうすれば勉強という事に興味を持ってもらえるか?」とか「楽しく学習が出来るか?」という事を研究してきた方です。だから基本的に【学ぶ事は楽しい!!】という事がベースにあります。私も子供の頃勉強してきた事って結構忘れていたのですが、今の子供の教科書とかを見ますと、ものすごく楽しいですし、学校の授業参観とか行きますと先生もとても工夫をして、いい授業をなさっています。

だから子供の頃、ボーっとしていて習得出来なかった物があると思うと、人生 2 回 3 回やらなければいけないなと思います。学校の授業を聞いていると本当にエンターテイメント性もありますし、楽しくしようという工夫がすごくあるのです。やっぱり面白くないと続かないですし、あとはみんなの心も掴めないのも、【楽しむ】という事を提供してもらっていますし、自らが気持ちを開いて、楽しもうという風に少し踏み出すと変わってくるのかな、という風な事も思っています。

4 学ぶ事は楽しむ為の入り口

【学ぶという事は、自分自身に楽しいきっかけを得るんだ】という事で取り掛かるといいのかなという風に思っています。

社会人生活を坦々と過ごしている時に、特技もないし「何か趣味ぐらい持たないと」という風に思っていたので、英会話塾に行ったのですが、【これを身につけなきゃいけない】という脅迫観念に駆られて、結局【楽しめる】という事ではなくて、結果だけを追い求めてやってしまった経験があります。

あるアナウンサーの方に取材をした時に「私、大人になってからバレエを始めて...」という話を聞きました。私は祖母のすすめで日本舞踊をしていたので、逆にバレエに強い憧れがありました。「やろう!」と思って、30 歳を過ぎてからバレエ教室に行きましたら、いらっしゃっている生徒さんは 40 代・50 代がほとんどで、隣のクラスのフラメンコクラスにいと 60 代・70 代の方も結構いらっしゃるんですね。皆さん趣味というよりは本気で、先生も厳しい。会社でちょっと疲れていたり、仕事で失敗したりすると、夜のクラスなので疲れが余計出てくるのです。疲れながらやっていると、パンッと先生が手を打って「会社で嫌な事が何かあったかもしれませんが、教室に持ちこむのはやめて下さい」と一喝されて、また練習をする。今振り返ってみると【学ぶことで何か自分の新しい世界が広がったな】という事と、バレエにも英会話にも向いてはいなかったと思いますけども、「新しい世界に会う!」という事があると、【新たな生きるエネルギーになるな!】という事に気がつきました。合わせてそこで得たのは、【仲間】なんですね。

5 仲間、仲間、仲間

仕事の中で知り合う方とは違い、趣味や一つの趣向を持って集まった方と交流をすると、色々な立場や考え方をもつ方に出会えました。自分とは全然違う仕事をしている人、主婦の方とか、本当にいろんな方がいて、年代を超えた友達というのが出来ましたし、【人と人の繋がりができるっていうのが、自分自身の本当に生きるエネルギーになったな】という事を感じています。

結果だけではなくて、【過程というのをすごく大事にしていく】と、かなり変わるという事を実感しました。

【学び】というのはコミュニケーションで、共に作っていくという部分が多々あります。何かの試験をクリアする為という事ではなくて、今の学んでいる時間この瞬間を大事にしていれば、何か変わるかもしれないという認識を持ち始めて、少し意識が変わってきたかなと思っています。

6 創造的な学び、何か落ちていないかな？

【創造的な学び】について、私はテレビのCMを作ったり、新聞の広告やチラシを作ったりという仕事の関わりの中で毎日過ごしていますが、創造性やクリエイティブというのは、ある種の制限や限られた条件の中で行うものなのです。「無限のキャンパスに何か書いてください」ではなくて、「この場所にこれをどうすればいいか？」という事を当てはめて、時間軸もあるというのが創造的でクリエイティブという事だと思います。これは、【大人塾】で皆さんがやっている様な「街を歩いている中で何かに出会う」「何かに気が付く」という「この問題は、ほっとかないで何か出来ないかな？」とか「解決できないかな」と、日常の中できっかけを見つけ、気づく事に共通していると思います。

【アイデアの出し方】についてもお話ししたいのですが、アイデアってなにか【作り出すもの】という性質が目立ちますが【発見する】方が多いです。世の中を変える様な本当に新しい面白いコンテンツ・エンターテイメントみたいなものとか、音楽でも絵でも、誰かがちょっと「これってこういうことじゃない」と気づいた事から始まる事もあるのですね。落ちているのを拾わなきゃいけないし、見つけなきゃいけないという事なので、見つける方法は、「何か落ちてないかな？」という姿勢を持って生きる」ことです。下を向いて歩いていると危険かもしれませんが、遠くを見たり近くを見たり、横を見たりと色々な視座を持つことで、自分から前傾姿勢を取ればアイデアっていうのは見つける事が出来ると思います。そして見つけた時に、人と話すことがとっても有効だと思うのです。自分ひとりで出来るアイデアって限られていますし、物事もそこで終結してしまうと、広がりが出ません、「こんな事をかんがえたのよ」とか「これについてどう思う？」と言ってみると、「気づかなかったな」と言われたりとか別の角度から見てもらったりという事が出てきます。それが新しい何かのきっかけになるという風に考え

ます。

7 様々な視点の意味を考える

私は、雑誌を作っていますが、雑誌というのは一つの視点でとおすすめではありません。正面から見るとどうか？裏側から見るとどうか？同じ物事も、色々な角度から見るとどういふ事が言えるのか？というのを検証していくのが仕事ですし、勾玉（まがたま）じゃないですけど、黒と白というのは入り混じる部分があったりですとか、境界線ひとつで、良くも悪くも見えたりという所があります。そういう部分を色々なに検討していくというのが発展の一つの要素でもありまして、自分で「こうだ」という風に決めこんでいた事を、人の話を聞くと、ちょっと違うかもしれないなという風に思える瞬間があったりと、そういう事が大きな【気づき】になるかなという風に思っています。

私は、子供の頃に「もうちょっと人の話を聞きなさい」だとか「全然人の話を聞いてないよね」と言われる事とかあったなと思います。面白い物を生み出す人とか、いわゆる芸術家の方というのは、意外と人の話を聞いていない様で聞いているんですよ。むしろ人の話や考えを取り込むのが上手い。そういう才能を持っている人が多いかなという風に思うんです。

「人の話を聞いてもしょうがないかな」と思ったり、「聞きたくないな」という気持ち働く場合もあるので、まず人が言っている事を聞いてみる事で、新たに開ける事が結構あると思います。

物事を進める時に、全然逆の事を言われたり、上司から「そんなのダメだろう」と言われて「上司はセンスが悪いな」とか「こんな事知らないのかな・わからないのかな」という風に思って、止まってしまうとダメなんです。上司が言っている事の意図はなんだろう？とか、意味・背景をちょっと推測しつつ取り込んでみる、一回その人の視点で考えてみるという事をやると結構「あ～そういう考えもあったか！」という風に新しい事が発見できるという事がわりとあるのですね。

何でも柔軟に取り込むという姿勢がすごく大事かなという風に思っています。

今は情報社会なので、情報は沢山ありますし、取ろうと思えばいくらでも取れる時代になりました。私が仕事を始めた20年ほど前は、情報は限られた人しか取れませんでした。マスコミやメディアは、人よりも早く情報が入るという事が特典でしたし、いち早く得た事を載せれば、商品になるという仕事をしていましたけれども、今はそれだけではすみません。情報を取ろうという風に構えている人がいれば、メディア会社でなくても取れる時代ですから、スピードにはあんまり意味がなくなってきました。

情報の【価値】や【背景】とか、そういうものをいかに取っていくかという事がすごく大切で、それを深めていくか？という事が大事になっていきます。ですから、その様な

周辺の情報を集めるという姿勢を持っていくと、新たな物が随分出てくるかなという風に思っていますし、得をするという事が多く出てくるのかなという風に思っています。

8 自ら動けば状況は必ず変わる

次は「自ら動けば状況は必ず変わる」です。【ソーシャルメディア】ということばをお聞きになった事があるでしょうか？

ツイッターとかブログとか、インターネット上で色々な事を皆さんが書きます。それで多くの人繋がる様になっています。これまでは、繋がりとうと電話をするか、手紙を書くとか、〔フェイス to フェイス〕で会うことでしかコミュニティーを作ることしかできなかったですけども、今はネットの中で色々なコミュニティーが出来ています。会った事もないですけど、何かフェイスブックという機能で友達になっているとか、そういう風な社会になってきました。【繋がり】を作っていくにも、自分自身の発信がないとダメですし、こんな興味を持っているのですという事を働きかけをするという事がすごく大事で、そこに色々な人と人の出会いがあって、一つの共通テーマをもって議論ができる機会が出てくる、という事があると思うのです。

なんとなくゆるやかに繋がっている人もいれば、一步踏み出して繋がっていきこうという人がいて、【大人塾】に参加をされる様な方や、今日いらして頂いている方は、一步踏み出して下さっている方だと思うので、声をかけられれば繋がれるでしょう。一步踏み出せた方々が世の中で、発進し、発展する存在だと思います。そういう人達が、多くの予備軍の人達を動かすきっかけになっていきます。

きっかけは、実は反強制的な事がないと出来ない、危機感迫られないと出来ない側面もあるので、自分からいつでも始められるのだけど、いつでも始める理由はないというのが結構世の中には多いのです。だからこそ、もう始めちゃおう！一步踏み出そう！やってみて色々変えていきこう！と決める。こちらの方がよいとおもいます。

色々な事を決断して動いていかないと、どんどん取り残されると本当にこの10年は実感してきました。

「こういう事をやろうよ」と企画をしてから、置いて温めていたり、決済を待っていたりすると、その間に状況が変わってしまうのです。

「やっておけばよかった」という方が多いと思います。やらないなら、もう一切やらないという方が、むしろ何も損益をこうむらないという所もあります。考えたらずぐ動き、動きながらまた考える。そして変えていく。そういう風な時代になってきていますので、【どんどん動いていく】という事が大事なのだと実感しています。

9 ちょっと横道にそれたお話～つながる

ちょっと横道にそれたお話しをしますと、メディアが増えたので、テレビCMは少なく

なっています。一方、企業は【情報】をウェブサイトやテレビ、新聞や雑誌などで発信しています。その中で、私が最近面白い傾向だなと思うのは、人気の出てきている広告キャンペーンと言われる物、商品だとか企業の事を好きになってもらおうと思って発信する情報の傾向を見ていると、皆さんに参加をしてもらおう広告、CMが指示されていることです。

たとえば、スポーツメーカーの話です。このメーカーの靴で走っていらっしゃる方、結構いらっしゃるんじゃないでしょうか。私も「明日から走ろう」と思いながら何年も経ってしままだに走っていません。ランナーの方は、一人だと孤独ですよ。だから「走る仲間を作ろう！」と思うのですけれど、実際は小学生ではないので友達を誘うのもなかなか出来ないし、会社に行く時間、仕事を始める時間、家事の時間というのはバラバラなので、仲間は探しにくいのです。

そういう事に目をつけた企業が、「一緒に走りましょう！」というキャンペーンを、携帯電話から参加出来る企画を作ったのです。GPSが携帯に入っていますので、「今日はここからここを走ろう」と。それを駅名みたいに繋いでいくのです。「誰さん、次は走ってね」「ここからここまで走ってね」と。走った分がどんどん記録されて、地図が繋がっていて、グループごとに競い合ったり、小さなイベントを携帯を通して行っています。「こんな面倒くさい事、みんなやるのかな？」と思ったのですが、実際はすごく盛り上がっているようです。日本人は真面目なので、「次走ってね」というと、24時間だとか48時間だとか期限内に必ず走って、どんどん繋がっていくんですね。最近と同じキャンペーンをアメリカでもやっているみたいですが、アメリカ人は「足が痛い」とか「今日は無理」というのでプツッとそこで終わってしまうらしいです。【繋がり】は日本人の得意とするところかな？とも感じました。日本人は真面目なので、人から人へ繋ぐとか【自分自身だけじゃない】という風になると、何か大きな力を発揮するところがあるのかもしれない。

もう一つ、九州のお酒のメーカーでは、お酒を一人で晩酌する人もいらっしゃるので会社のウェブサイト【しりとり】をやる企画を立てました。何かをつぶやいて、しりとりをするのです。これ自体も「いったい広告だろうか？」と思ったり、「これは会社なのだろうか？」とか疑問も浮かびますが、【会社が広告という企画を通して、みんなが参加できる場を作る】【コミュニティーをつくる】事をやり始めています。「こんな事で一緒にやりませんか？」と声をかけると、多くの方が参加する傾向があります。すごく面白い傾向ですよ。

震災で、みんなの心の土台をはじめ、色んな物の土台がちょっと揺らいでしまったなという気分を持っている方がふえました。この中で、みんなと繋がって、一緒だったら何か出来るかなという風なマインドにもなっています。この気持ちを深める必要があると思っています。

合わせて、歴史を見ても、時代の節目になるような変化は大掛かりに一気に動くのでは

なくて、辺境の小さい動きから、世の中を大きく変える動きが出ています。【すぎなみ大人塾】から出るかもしれないし、東北から出てくるかもしれませんが【小さく初めて、みんなで動かしていく】という事がすごく大事なのだと思います。

10 現在進行形というキーワード

つながるという事がキーワードでありましたけれど、もう一つのキーワードは、現在進行形です。広告やCM、ポスターというのは完成形なので、書いている途中の作品が貼ってあるとちょっと不思議だし、迷惑なのでいけないです。ところが、インターネットの時代になると、「今ここまで出来ているのですが、どうですか？」という風に、途中で呼びかけるとい事も出来るのです。この後どうしたらいいでしょうかね？という事で人の知恵をもらうとい事も出来ますよね。それは出力する物によっても色々だと思えますけれども、だから特にプロジェクトとかは色々出来ると思えます。途中まで作って、もう5人のアイデアでは煮詰まって無理という物を、「じゃあちょっと全然違う分野の人に見てもらおう」とか、「合体させてしまおうよ」とか、途中で出してそれが変わっていくという方法もうまれているのです。

ですから、「まだまだ出来ていないから、みなさんにお見せする様な・・・」ではなくて、とりあえず見てちょうだいと。ここから新たな発展があるので、2つのキーワードで色々物事を進めていくと面白い事が出来るのではないかなと思っています。

煮詰まって途中で置いてあるものって、結構自分の周りにもあると思えますし、会社だと沢山あるのですね。そういう物を外に出していくという事が大事なかなという風に思っています。

自分から動いて、周りのものも動かして、共に動いていくと、新たな自分の発見があります。私は編集者なので、色々な人に会います。あるとき、料理研究家の人と建築の人と座談会で話してもらったところ、みなさん新たなアイデアが出てきたのです。人というのは意外と自分で決めている自分の姿よりも広がりをもっとあるはずなんです。だから、「こんな事やってみたらどうですか？」とか「出来るのじゃない？」と言われた時に、「いえ私になんか」と思わずに「じゃあひとつやってみようかな」という風に、少し手を出してみると新たな自分の発見があるのです。

「やってみて下さいよ」とか「ちょっと話してもらいましょうよ」と声をかけられた時は、きっとチャンスなので、ぜひ踏み出して頂くと出会いが生まれます。新たな出会いとは、他人だけではなく、自分との出会いでもあるのです。

11 得意分野で社会の一翼を担う、自分の情報を出す

他には【得意分野で社会の一翼を担う】ですが、大人塾を通して、自分の得意分野や自分の新たな才能に出会った時には、【社会と共に】という事を実感できると思えます。企業はこれまでも「社会の為に自分の会社は頑張ります！」とは言いながら、自分の会

社中心だったと思うのです。それはもちろん仕方がない事なのですが、自分の会社があって社会があり、社会があって自分の会社がある。自分があって社会がある、社会があって自分自身がある中で、自分だけが良くてダメですし、社会と繋がってないといけません。その繋がりを作る所に、自分の何か身の丈にあったとか、自分の得意な所という事で接点の近い所がありますから、そこで繋がっていけると一番いいと思います。知識と情報で色々な人が繋がって、さらに新たな物が出来る。こうして、さまざまな企画をどんどん展開出来ると思っています。

よく辺りの学校とかを見ても、【こういう子供を育てます】みたいな教育方針が出ていて、明るい子とか体を鍛える事が書いてありますけど、どこかの学校に【社会の役に立つ子】という表現がありました。素晴らしいなと思います。

大人も子供も【誰かの役に立つ】という事がすごく嬉しい事ですし、何か商品を開発して、それを売りたいから売るという事ではなくて、問題を解決する為に商品が出来る。商品が提供してくれる意味合いを買って、お客さんが理解してくれれば、売ると買う人と繋がります。それでこそ「生きていく喜び」とか「楽しみ」が生まれてくると思っています。

私はボランティアにはまだ行ってないのですが、被災地には父親が行きました。70代前半なので迷惑ではないかなと思いつつ送り出しましたところ、すごくイキイキとして帰ってきました。建築にあかるいため、出来る事がたくさんあったようです。「もう電話切っていい？」と言うくらいずっと電話口で活躍を話してくれました。現地に行って、【何か自分の出来ることで、人の役に立てる】という事は、すごいエネルギーになると実感しました。動けば何かが変わる。そこを強く認識していくという事が、【学びの基本】であり【学びによる成果】になってきます。

そういう活動をしてきたら、ぜひ遠慮せずに自分自身の事をいろんな人に話して頂くといいのかなと思うんですね。「今こんな事やっているんだ」とか「実はこういう事があるってね」と。「こういう相談にのっているのだ」とか、そういう事を言って頂く。「あ、それなら！」という事で情報が集まってくると思うのです。

例えば「カエルが好き」とか言っている人がいると、旅行に行った時にカエルの小物などお土産があると、「あの人、カエル好きって言っていたな」と思って買ってしまったりする事があります。自分から情報を出しておくという人は、絶対に得をするのです。【情報を出せば情報が自分に返ってくる】という。だから、今こういう情報社会なので、一番の価値がある物というのは情報です。情報には情報を。発信をして、また情報を受け止めて、またそこから発信してという連鎖が大事だと思います。

1 2 情報の価値

私も編集の仕事の中で、昔は何か情報をお寄せ頂いた方にはテレホンカードとか図書カードなどをお返していましたが、モノよりも喜ばれるのが「まだ皆さんの知ら

ない情報を先にお伝えしますね」というお金に変えられない情報・価値です。【情報の価値】というのを実感して頂いて、自分自身に取り込んでいって頂くといいですよ。学びで【成果だけではなくて過程も大事にする】というお話しもさせて頂きました。教育とは、みんなで何かを作り出していくので、新たな目標が出来たり夢が出来たりといった【希望】になります。まだ見ぬ自分への挑戦とか、明日何か新しい物を生み出せるかもしれないというワクワク感というのは、すごく人生を豊かにしますし、喜びにもなると思います。そこをぜひ意識していって頂くと、さらに【充実】だとか【楽しさ】とか【面白さ】とかが、日常で得られると思っています。

私もマンネリ化したときや、もうちょっと刺激が欲しいなと思う時は、人と会話をします。本やテレビ、雑誌も出会いがあるのですけれども、人との会話はさらに違う考えを与えてくれるので、自分がすごく深刻になっていた事が「実は全然たいした事でなかった。」と、新しい気づきになります。本当に意識が開けるので、ぜひおすすめしたいです。身の回りにある課題は、つまるところは地域がベースです。何か全てを取り込む学問があるとすれば、それは【地域学】とよべるのでしょうか。【大人塾の文化】みたいな事を作っていくのが皆さんとこれまでの先輩方で、その【文化】が、杉並を変えて、東京を変えて、日本を変えていくかもしれません。人の心を変え、世の中を大きく変える事というのは、制度とか設計ではなくて、文化なんですよね。文化は人の力です。ですから、一人一人が意識して行動して文化を作って、みんなの中でそれを深みのある物に調整していくという事で、本当にいいものが出来ていくと思っています。

今日は色々理想的なお話しをさせて頂きましたが、本当に一人ひとりの人生が2倍3倍5倍の豊かさになるといいかなと思いつつ、多くの方に出会うことで、一人のエネルギーや希望が得られることを願っています。皆さんのこれからの活動にも注目をさせて頂きたいと思えますし、住まいは杉並ではないのですけれども、これからもぜひ色々な機会を頂ければと思っております。何か質問等あれば、後で頂いても結構です。この後お歌も聞かせて頂けるという事ですので、【繋がり】という事を期待させて頂きたいと思えます。

ご清聴どうもありがとうございました。